

公立大学法人高崎経済大学  
平成28年度業務実績に関する評価結果

平成29年11月

高崎市公立大学法人評価委員会

## 目 次

1	評価方法 .....	1
2	全体評価 .....	2
3	項目別評価 .....	3
	I 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 .....	3
	II 学生支援に関する目標を達成するためにとるべき措置 .....	3
	III 地域・社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置 .....	4
	IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 .....	4
	V 財務運営の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 .....	4
	VI 自己点検及び自己評価並びに情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置 .....	5
	VII その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置 .....	5

## 1 評価方法

高崎市公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、公立大学法人高崎経済大学（以下「法人」という。）より提出された「平成28年度業務実績報告書」（以下「業務実績報告書」という。）をもとに、平成28年度における中期計画の実施状況の調査をし、及び分析をし、並びにこれらの調査及び分析の結果を考慮して業務実績を評定した。

### （1）評価にあたっての基本的な考え方

- ① 評価を通じて、法人の教育研究及び運営の状況等を分かりやすく示し、市民への説明責任を果たしていくものとする。
- ② 法人の教育研究、学生支援や運営についての工夫や特色ある取り組みを積極的に評価するものとする。
- ③ 次期の中期目標・中期計画、法人の組織及び運営の見直しの検討に資するものとする。

### （2）評価方法

評価は、「全体評価」及び「項目別評価」により行った。

- ① 「全体評価」は、平成28年度の業務実績を総括的に評価するとともに、中期目標・中期計画に対する進捗状況を評価した。
- ② 「項目別評価」は、法人の自己評価による達成状況の割合を参考に、7つの大項目ごとに法人の意見を聴取しながら評価した。

## 2 全体評価

平成28年度業務実績報告書によると、中期目標の7つの大項目のうち、4つの大項目（「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「財政運営の改善に関する目標」、「自己点検及び自己評価並びに情報の提供に関する目標」、「その他業務運営に関する重要目標」）については、すべて年度計画を達成しており、順調に進捗が図られた。また、残りの3項目（「教育研究等の質の向上に関する目標」、「学生支援に関する目標」、「地域・社会貢献に関する目標」）については、概ね年度計画は達成できている。

一方、これからの大学が抱える課題として、グローバル化の進展に伴う対応や地域貢献活動の推進が挙げられる。前者については、英語教育の両学部共通化や海外研修派遣事業の推進、English Caféにおけるプライベートレッスン、eラーニングの活用、国外の提携校の拡大など、積極的に事業を展開しており、大きな成果が期待されるとともに、更なる充実・活用を求めるものである。後者については、カフェあすなろ等の学生によるまちづくり活動をはじめ、産業界との連携など、社会貢献活動を生かした人材育成に取り組んでおり、今後の成果が期待される。

また、情報発信の面で、他大学と比較検討する中で実績の評価ができれば、より客観的に評価を見ることができ、これから高崎経済大学を目指す学生や保護者に対して大いにアピールあるいはPRできるものであり、報告できる資料の工夫を期待する。

結びに、平成28年度は公立大学法人として6年目の事業年度である。実績報告書から見ても、法人運営が円滑かつ適正に行われており、大学における様々な取り組みの成果の表れと評価できる。第1期中期目標期間が最終年度を迎えたわけであるが、第2期中期目標においても必要な対応を年度計画に位置付けるなど、理事長のリーダーシップのもと、目標達成に向け教職員が一丸となって、法人運営を推し進めていただくよう要望して、全体評価とする。

### 3 項目別評価

#### I 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

業務実績報告書によれば、98%の達成状況となっている。

入学者受入に関しては、オープンキャンパスや大学訪問、1日大学体験 DAY、県外進学説明会、県内公立4大学合同説明会などを開催し、全国からの志願者確保に向けた取り組みは大いに評価できる。

学生の育成に関しては、初年次教育の充実を図るため、経済学部では「日本語リテラシー」、地域政策学部では「初年次ゼミ」を実施しており、今後の効果が期待される。また、グローバル人材の育成を目的に English Café を実施しており、新規利用者数の増加を図るため、プライベートレッスンを取り入れたことによる効果に期待したい。

教育の内容に関しては、客観的な評価システムである GPA 制度の運用を開始し、成績評価基準の明確化を図るとともに、その分析結果を成績不良者への指導に役立てており、その効果が期待される。また、英語教育の両学部共通化は学生の学ぶ機会を幅広く提供しており、大いに評価できる。

国際的に活躍できる人材の育成について、多くの学生が海外研修で成果を得ており、支援の更なる充実を図っていただきたい。

研究成果の公表に関しては、公民館との連携講座やラジオゼミナール、ホームページへの掲載など、様々な方策を講じて進めていただきたい。

今後も受験生及びその関係者等のニーズの把握に努め、より良い情報提供及びより効果的な実施方法の検討に取り組み、質の高い受験生の確保に向け尽力いただきたい。

#### II 学生支援に関する目標を達成するためにとるべき措置

業務実績報告書によれば、98.4%の達成状況となっている。

学習支援に関しては、ガイダンスや窓口での履修相談を拡充し、きめ細やかな指導体制が整備されている。学生へのより一層の支援体制に努めるものである。

学生生活支援に関しては、奨学金給付額の上限変更や授業料減免制度など学生への経済的支援を重視しており、今後も周知を図っていただきたい。

キャリア支援については、キャリア形成ピラミッドを構築し、それに沿って学生へのキャリア就職活動が行える様々なサポート支援を徹底している点は、大いに評価できる。

学生支援の充実は、大学の魅力を高めるものである。意欲と能力のある学

生が安心して修学できるよう、多様化する学生の課題やニーズの把握に努め、学生へのきめ細やかな支援体制の一層の充実に努めていただきたい。

### Ⅲ 地域・社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

業務実績報告書によれば、96.8%の達成状況となっている。

地域貢献に関しては、地域社会において地域のニーズを踏まえた教育、研究を行うことにより、地域の発展に貢献していくことが、大学の果たす社会的な貢献の一つとして重要である。新規事業として、高崎市の歴史をテーマとした地元学講座や地域学習をテーマとした地域巡りを開催するなど、更なる取り組みに期待したい。

産業界との連携に関しては、高崎商工会議所や市内製造業者との連携により『地方製造業の展開 高崎ものづくり再発見』を刊行するなど、これからの産業界との連携に取り組んでいただきたい。

国際貢献に関しては、計画的に海外提携校との連携を進め、学生・教職員交流の促進が図られるよう努めていただきたい。

### Ⅳ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

業務実績報告書によれば、100%の達成状況となっている。

学生の声を反映した業務運営に関しては、運営状況の積極的な公開を実施しており、教育研究組織の充実・改革に関しては、全学のFD・SDを通じて教職員が研究情報を共有するなど、その取り組みを評価したい。

今後も継続的に実施し、業務運営の改善及び効率化に努めていただきたい。

### Ⅴ 財務運営の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

業務実績報告書によれば、100%の達成状況となっている。

外部資金の獲得、自己収入の増加に関しては、大学の研究力の向上に資するものであり、引き続き教職員の意識啓発に取り組んでいただきたい。

大学の魅力や教育の質の高さについての情報発信については、受験生及び入学生を確保するため、引き続き効果的な広報戦略の検討に努めていただきたい。

また、経費の効率化に関しては、有効的な施策を講じるとともに、教職員への意識啓発を高め、更なる経費削減に努めていただきたい。

## **VI 自己点検及び自己評価並びに情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置**

業務実績報告書によれば、100%の達成状況となっている。

大学基準協会の認証評価を受審し、結果、適合と認められている。今後も同協会の認証評価に従って運営することとなるが、引き続き自己点検及び自己評価の結果並びに監査結果を業務運営の改善に反映できるよう、確実なPDCAサイクルによる法人運営に努めていただきたい。

## **VII その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置**

業務実績報告書によれば、100%の達成状況となっている。

今後も学生、教職員が安全で快適な環境の中で教育研究活動や業務に専念できるよう、計画的な施設整備の維持管理に努めていただきたい。